

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：JA 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 18

高品質な麦生産に向けた今後の管理について

本年の麦は、1月中旬以降の高温の影響により、生育量は平年並～やや多く確保され、出穂期は平年より1週間程度早くなると予想されています。湿害の発生は少ない状況ですが、再度、排水溝の溝さらえ及び排水口の整備を行うなど排水対策の徹底をお願いします。

今後、「赤かび病防除」や「穂揃期追肥」のような麦の品質を大きく左右する重要な管理作業があります。特に、本年は播種時期の違いにより麦の生育が大きく異なっているため、生育に応じた適期作業の実施をお願いします。

1 出穂期予測（参考）

麦の出穂期は、平年より5～7日早いと予想されます。九州北部地方（3/13～4/12）の1か月予報（福岡管区气象台 令和3年3月11日発表）では、気温は高くなる見込みであり、下表の予想出穂期よりやや早まる可能性があります。

表 麦類の出穂期予測（農林業総合試験場農産部、筑紫野市）

播種日	品種名	予想出穂期	前年差	平年差
11月20日	チクゴイズミ	4月1日	8日遅い	6日早い
	ラー麦(ちくしW2号)	3月31日	8日遅い	7日早い
11月25日	ほうしゅん	4月1日	7日遅い	5日早い

注) 予想出穂期は、3月10日までの平均気温、それ以降は平年値。予測値には誤差があるので、あくまで参考として下さい。

2 麦種別の赤かび病防除適期

- 小麦、はだか麦：開花期（出穂後7～10日頃）～開花最盛期
- 二条大麦：穂揃期の約10日後（出穂後12～14日頃、蒴殻が抽出する時期）
 - ※3月中に出穂した場合、一般的に出穂期から開花期・蒴殻抽出期までの期間が長くなるため、開花状況を確認して防除すること。
 - ※晩霜により不稔を生じた場合、赤かび病が発生しやすくなるため、要注意。

※「ラー麦(ちくしW2号)」、「ミナミノカオリ」、「はるか二条」、「イチバンボシ」、「くすもち二条」は、赤かび病に弱いため、必ず2回防除を行う。

※その他の品種についても、防除実施後に降雨や曇天が続き多発が予想される場合は、1回目の7～10日後に2回目の防除を行う。

3 穂揃期追肥

- ・「ラー麦（ちくしW2号）」、「ミナミノカオリ」は、目標タンパク質含有率12%を達成するよう、穂揃期追肥を確実に実施する（窒素成分で5kg/10a）。
- ・穂揃期追肥の効果が高い時期は、穂揃期（出穂後2～4日頃）～穂揃期後7日。
※極端に出穂が早いほ場では、「1穂でも開花が見え始めた時期」に追肥開始。
- ・なお、葉面散布を行う場合は、高温時を避け、開花期と開花期後7日頃に2回、それぞれ窒素成分で2.5kg/10aを施用する。
- ・毎年タンパク質含有率が低いほ場や、葉色が淡いほ場や、追肥時期が極端に早かったほ場等では、以下の対策をとる（穂揃期追肥は、倒伏への影響は小さい）。

品種	対策	目標タンパク質含有率
日本めん用小麦 (シロガネコムギ・チクゴイズミ・ニシホナミ)	穂揃期追肥(窒素成分2kg程度)を実施。	10.0%以上
パン・中華めん用小麦 (ちくしW2号・ミナミノカオリ)	穂揃期追肥の施肥量を増やす。 (目安として、窒素成分1kg増量でタンパク質含有率は0.5%向上する)	12.0%以上

※葉面散布の場合、濃度が濃くなると葉が焼けるため、追肥の増量はしない（濃度の上限は窒素成分で2.5kg/10aまで）。

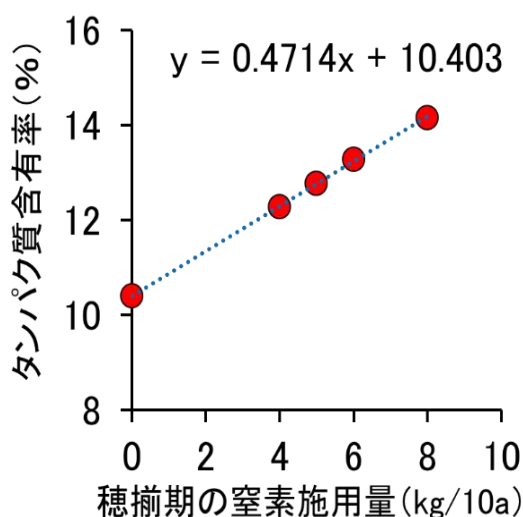


図 穂揃期の窒素施用量とタンパク質含有率（筑後分場）

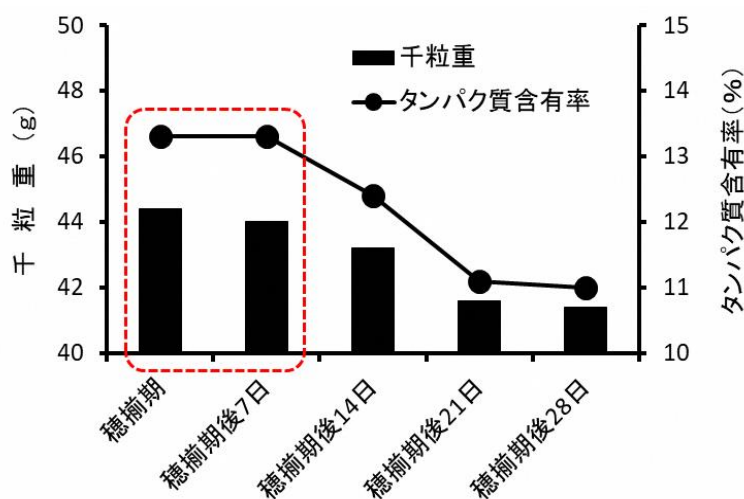
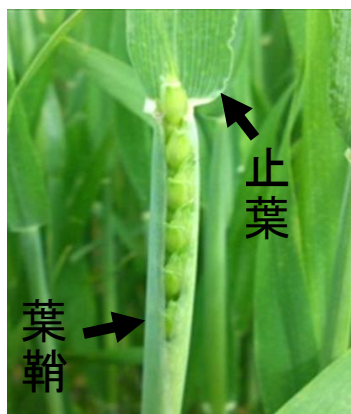


図 穂揃期追肥の施用時期別の千粒重、タンパク質含有率（豊前分場）



小麦が出穂した状態

《出穂期、穂揃期の見方》

- 出穂とは、穂先が最上位葉の葉鞘から現れる現象
- 出穂期とは、有効茎数の40～50%が出穂した日
- 穂揃期とは、有効茎数の80～90%が出穂した日

※出穂が極端に早いほ場では、出穂期～開花期の日数が通常の7～10日間以上に時間を要するため、開花の開始時期を確認し、作業を行いましょう。